



## 第一礼拝次第

メッセージ：渡真利彦文牧師  
音 響：郭永東牧師

前 奏			
頌 栄	5 4 0	会 衆	
主の祈り		〃	
プレイズ	「Still」	〃	
	「鹿のように」	司 会	
聖書朗読	使徒言行録 18：1-11	〃	
祈 禱	(新約聖書 p 249)	会 衆	
賛 美	新生 5 8 6	牧 師	
メッセージ	「私の民が大勢いる」		
祈 禱		会 衆	
賛 美	Ⅱ 讚美歌 1 6 4		
献 金		会 衆	
報 告			
頌 栄	新生 6 7 2 B	会 衆	
祝 禱		牧 師	



## 第二礼拝

メッセージ：郭永東牧師

聖書：ヘブライ人への手紙 11：36-40  
(新約聖書 p 416)

メッセージ：「世にふさわしくない信仰」  
プレイズ：「御前につどい」「静まって知れ」  
賛美： 新生 5 8 6 新生 2 9 2



## ファミリー礼拝 (9:00)

メッセージ：渡真利千佳子姉

聖書：コヘト 11：1～6  
メッセージ：「それでも種をまこう」

## <巻頭言>

「幸いなものとなる」

牧師 渡真利彦文

昨日朝、教会礼拝堂にて納骨式が執り行われました。亡くなられた本人はクリスチャン、遺骨は実家で約2年預かってもらっていたようです。今回、子どもたちから依頼があり当教会の納骨堂に安置することになりました。

納骨ですが、普通世間では、初七日や四十九日などの法要に合わせて行う、と聞いています。キリスト教では死者は死の瞬間に神の御手にあるのですから、納骨の日取りについて何の制約もありません。いつでも良いのです。ただ、長く家に置いておくと、ほこりにまみれたり、来客の礼拝の対象になったりするので、なるべく早く納骨することが善いと思います。ですから、まだ墓地がない場合は、教会の納骨堂へ預かっていただいたら、いかがでしょう。来宅された客人も、「遺骨は教会堂に納めてあります」と言えば、「それは」と清らかな感じを持ってくれましょう。

納骨式は一般的に野外の墓前で行うので、春秋は良いとしても、夏の日照り、冬の寒さの中で、あるいは強い風雨の中で、となることがあります。しかし、当教会で行う場合は春夏秋冬や風雨に関係なく行えることは関係者にとって取り組みやすいこととなります。いずれにしてもすっきり、清楚に、モットーとしたいものです。

「今から後、主に結ばれて死ぬ人は幸いである。」黙示録 14 章 13 節